



熊本県総合防災 航空センター

Kumamoto Prefecture
Disaster Relief
Aviation Center

熊本市の中心部から東へ20km、
高遊原(たかゆうばる)台地に位置する
阿蘇くまもと空港に隣接。
周囲の風景に溶け込むように、
この施設はたたずんでいる。
2014年1月、
「九州を支える広域防災拠点構想」を策定。
老朽化した防災消防航空センターと
警察航空隊基地の両施設に、
大規模災害時に集結する災害関係ヘリの
運用に必要な機能を加え一体的に
整備することとなった。
国内外で活躍する建築家から
プロポーザルにより設計者を選定。

大空間の構成や耐震性が要求される
ヘリ格納庫において、県産木材の活用に挑んだ。
九州における災害時の拠点として
活用されるだけでなく、県産木材の利用拡大を
先導する建物となることが期待される。

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

熊本県総合防災航空センター

● 建築概要

九州における広域防災拠点として計画された、防災消防航空センターと警察航空隊基地の合築による「熊本県総合防災航空センター」である。

ここでは、防災消防航空センターと警察航空隊基地を用途上区分しつつ、公開性とセキュリティの両立する平面計画としている。両施設とも、ヘリコプター格納庫を中心に、その周りに整備資材庫や事務室を配し、日常的なヘリ整備や事務作業の効率化に配慮した。また、両施設間にブリーフィングルーム（大会議室）を設置し、大規模災害時の一体的な使用を可能としている。さらに、災害時における隊員の緊急出動や、支援機・支援車からの要員・物資の出入りを最短経路で効率よく行える、ひとつつながりの動線を計画している。構造的には、県産木材とコンクリートを適材適所で組み合わせ、合理的な構造・構法による建築としている。建物下部の倉庫や事務室等は安定した性能を示す鉄筋コンクリート造、格納庫およびブリーフィングルーム上部は小径（120mm角程度）の流通材と既成接合金物を用いた木造としている。このことにより、高い耐震性能を確保しつつ、今後大架構木造建築を設計する上で、また県産木材の活用による木質化を推進する上で参考となる建築を目指した。

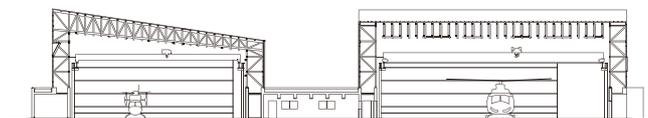
「防災」という、重要かつ困難な任務に関わる隊員の方々にとって、木を多用した空間が、親しみのもてる、穏やかな空気に満ちた場となることを期待している。



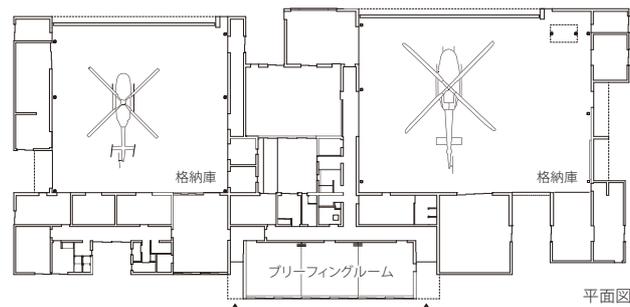
PHOTO (右下) / 日本工業大学小川研究室

● 建築データ

名称 / 熊本県総合防災航空センター
 所在地 / 菊池郡菊陽町大字戸次1698
 主要用途 / ヘリコプター格納庫
 事業主体 / 熊本県、熊本県警察本部
 設計者 / 小川次郎 / アトリエ・シムサ+ライト設計
 施工者 / 建築 / 岩下・熊野建設工事共同企業体
 電気 / 宮本電気工事株式会社
 機械 / 株式会社ミナミ冷設
 敷地面積 / 10,347.07㎡
 建築面積 / 1,940.22㎡
 延べ面積 / 1,909.55㎡
 階数 / 地上1階
 構造 / 木造一部鉄筋コンクリート造
 外部仕上 / 屋根 / ガルバリウム鋼板 瓦棒葺き
 外壁 / (低層部) コンクリート打放し 撥水剤塗布
 (上部) ガルバリウム鋼板
 施工期間 / 2016年10月～2017年10月
 総工事費 / 756百万円



断面図



平面図



● 建築家プロフィール



小川 次郎
(おがわ じろう)

1966年 東京都出身
 1990年 東京工業大学工学部建築学科卒業
 1996年 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程満期退学
 アトリエ・シムサー級建築士事務所設立
 2009年 日本工業大学工学部建築学科教授

● 主な作品
 モミガラ・パーク、MUDMEN、HDY

● 受賞歴
 2003年 代官山インスタレーション最優秀賞 (EPSP)
 2010年 日本建築学会作品選奨
 (日本工業大学百年記念館 /
 ライブラリー&コミュニケーション・センター)

くもとアートポリス事務局

熊本県土木建築住宅局建築課
 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1
 Tel: 096 333 2537